

多様化する家族のかたち
から見えるもの、
定形外家族が抱える課題

定形外かぞく 代表 大塚 玲子

定形外かぞくとは？

「いろいろな形の家族をアリにする」

→認め合う、否定しない
インクルージョン、包摂

一般的な家族像

「お父さん、お母さん、血のつながった子ども」

<現実>

ひとり親家庭、再婚家庭、
LGBT家族、里親養親家庭、
等々々

「家族のダイバーシティ」

> 「定形外かぞく」

「おひとりさま」 「児童養護施設」 も
みんなアリにしたい
→なんと呼べば？ (*Д*)

きっかけ

いろいろな家族形態の人たちの悩み
→みんな同じ問題に行き着く！

「家族はかくあらねばならない」
プレッシャー、思い込み、縛り

「かわいそう」問題

定形じゃない家族は
「かわいそう」「不幸」という
決めつけ・思い込み

<ひとり親家庭の場合>

子どもに対して...

「お母さんを幸せにしてあげてね！」

シングルパパに対して...

「誰か、いい人紹介しようか？」

『親の離婚と子どもの気持ちQ & A』

(光本歩・新川明日菜ほか
NPO法人WINK監修
明石書店)

「自分をかわいそうとは思いたくない」

「他人に何がわかるんだ？」

「いっしょに暮らす親の言葉や態度」

<LGBT家族の場合>

「子どもがかawaiiそう」

ひとり親はもはや多すぎて
言われなだけで
単なる数の問題

それぞれの悩み

育てる親の悩み

精子提供をする親の悩み

「子どもと会わない」と
決めたゲイのパパ

<AID家族の場合>

非配偶者間人工授精

石塚幸子さん

「ふつうの家族」が目的？

『AIDで生まれるということ』

～精子提供で生まれた

子どもたちの声（萬書房）

<里親・養親家族の場合>

オープンにしづらい

親権者が措置に同意しないと
施設→里親への措置が
できないことも

<再婚家庭の場合>

とくに「継母」の苦悩

「お母さん」として
実子同様に継子を愛すること
世間、義母、夫から求められる

面会交流

親→「前のお父さん（お母さん）」

子→「お父さんはお父さん
（お母さんはお母さん）」

<拡大家族>

みんな、家族でいいじゃない

<定形「内」家族の場合>

「夫が稼ぐ・妻が家事育児」の縛り

「いっしょに住む」の縛り

「性関係は一对」の縛り

「結婚しないと産めない」の縛り

Etc.

問題提起

みなんで考えてもらいたいこと

家族の形をなぜ決めつける
必要があるのか？

- ①なぜ存在してきた/しているのか
- ②取っ払ったらどうなる？
- ③どうやったら取っ払える？